

どうする？「法人化」問題 —いまだ苦慮する学協会

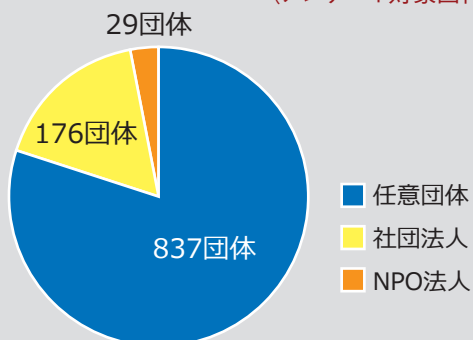
●●●●● 新法の移行期限 11月30日迫る!!

平成 20 年 12 月施行された「新公益法人法」では「新公益法人法適用の移行期限」を本年(平成 25 年) 11 月 30 日と定めている。日本学術会議のアンケートではこの期限の周知は 733 団体(67%)に留まり、いまだ 1/3 の学協会はその経過自体を承知していない。こういった状況に対して、日本学術会議の科学者委員会・学協会の機能強化方策検討等分科会(委員長:石原宏)が平成 24 年 9 月に『新公益法人法への対応及び学協会の機能強化のための学術団体調査』を実施し、その結果を平成 25 年 3 月 31 日公表した。期限を前にして苦慮する学協会の実相をアンケートからレポートしよう。

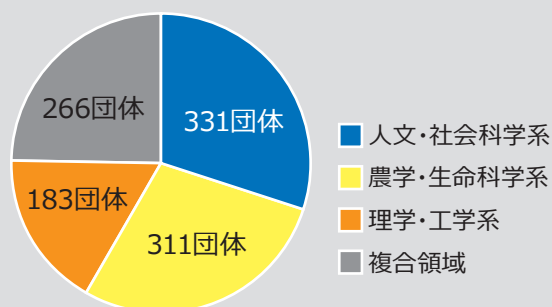
アンケートは日本学術会議の協力学術研究団体など 1936 団体に対して行われ、54.6% = 1091 団体から回答を得た。(回答団体の新法施行前形態および分野別割合はグラフ①、②の通り)

① 新公益法人法施行前の組織形態

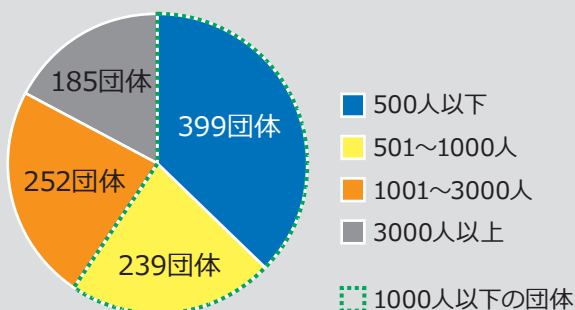
(アンケート対象団体のみ)



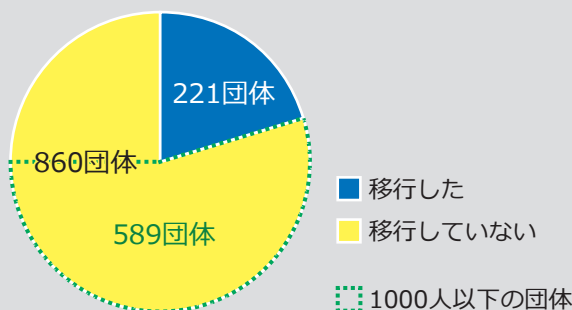
② 主たる活動分野別割合 (アンケート対象団体のみ)



③ 団体規模別の回答



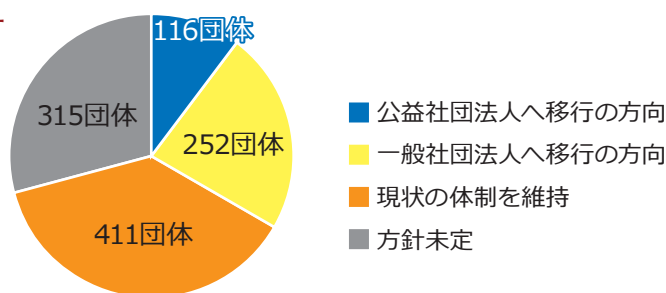
④ 新公益法人への移行状況 (新法施行後)



上記のグラフ③を見ると、1000人以下の組織体力が弱い小規模団体が全体の59%を占めている。新法施行後に新公益法人に「移行した」とする団体は221団体、一方「移行していない」は実に860団体(79%)に上る。「移行していない」の内589団体(54%)が1000人以下の団体で、小規模団体ほど対応が難しいようである。(グラフ④)

また、アンケート回答団体の新公益法人法への対応方針は次ページのようになっている。

⑤ 新公益法人法への対応方針



いまだ 38% の 411 団体が「現状維持」を方針としている。(グラフ⑤)

こういった方針の選択にあたり、公益法人・一般法人を目指す団体はその理由として、それぞれ以下のように上げている。(グラフ⑥、⑦)



上記のアンケート結果から、法人化の意義を「社会的な信用」という抽象的ステータスに置いている傾向が窺える。

しかし、公益・一般の法人化を実施した複数の学協会からは、

- 経理事務の煩雑化や日常事務の増加で困っている。
- 学会の運営は会員が各大学での本務（相談活動や教育・研究活動等）の間隙を縫って、ボランティアで行っているため、労働の限界を越えるのではないかと危惧がある。また、学会事務局にて実務を担当する事務員の新たな雇用も予算的に限界がある。

といった実態に即した厳しい現状も報告された。

アンケート調査の概要は概ね以上の内容だが、期限を目前にしても判断に苦慮している学協会の姿が滲み出ている。しかし「任意団体」であっても経理体制が確立していなければ「機関 Journal 刊行」「大会・学術集会開催」「セミナー・講習会運営」「認定料収入」などの学術活動全般が収益事業活動として事業費の課税対象となりかねない。法人化対応の可否・有無は別に、いつなんどき税務当局からの調査が行われた場合でも、不要な嫌疑 [脱法行為] を抱かせないように財務・決算・監査の常態的な体制を整備する必要はあるようだ。

[記事：井上俊幸]

エジプト調査の苦勞

—文明の衰退とは何なのか?に引き合っ—

川西 宏幸 [アコリス調査団長]

中エジプトのアコリスという遺跡で学術調査が始まって、33年になる。発起時から参加してきたので、黄昏を迎えた我が人生のちょうど半分にあたる。同じペースで調査を進めると、終了までにさらに10倍の歳月を要するが、もとよりそこまでは付き合えない。文明の衰退とは何なのか、この難問に少しでも満足する答えが得られれば、後進に途を譲るつもりであるが、それさえも心許無い。

調査には苦勞が多いでしょう、と慰めの言葉をかけられることがある。摂氏40度を超える炎天下の現場作業、エアコン

なしの宿舎、水シャワーだけの風呂、バケツ水で流すトイレなど、数えあげれば不自由は尽きないが、慣れると気にならない。夜の訪れとともに砂漠から涼風が立ち、それに身を委ね、星空のもとでジンライムを傾ける。こんな至福はない。

苦勞というと、念頭に浮かぶのはお金のことである。作業を共にする村人の労賃、宿舎番人の給料、そして彼等の保険料、監督官や警官への謝礼など、100万円を越すお金が現地で消える。40人を1月間、日本で雇用した人件費に較べればはるかに少ないが、それでも潤沢とはいえ調査費全体に占める割合は大きい。アベノミクスに伴う円安で、今年はひときわ厳しいだろう。

始めて発掘の鍬を入れた1981年は、サダト暗殺で揺れ、ムバラクが新大統領に就いた年であった。宿舎があるテヘネ村には、このころ電気がなかった。現金よりも穀物が支払い手段として幅を利かせていた。翌々年に電気が来て、テレビ、洗濯機、冷蔵庫の順に行きわたり、今はエアコン付きの家まである。携帯やコンピュータも珍しくない。電気が村人の生活を変え、すべてに貨幣経済が浸透した。

電気はまさに資本主義の先兵であった。

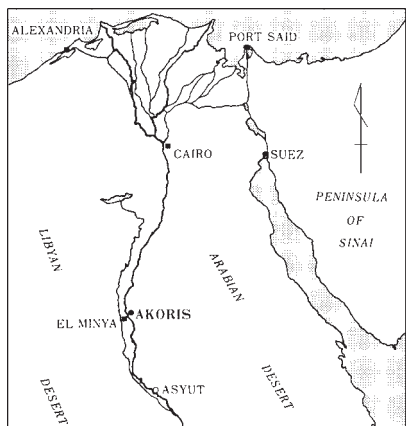
もとより、その恩恵を蒙った人ばかりではなかった。人口7千人ほどだが、百姓を見限って商工業に転身した一族はいっそう富み、出来なかった小農は零落せざるをえなかった。資本主義の常とはいえ、その残酷さを眼のあた

りにするといたたまれない。近傍で大規模な採石業が営まれているので、労働環境の過酷さを厭わなければ、現金収入を得る方途はある。若者の多くはこうして結婚費用を捻出する。

ところが、2008年のリーマン・ショック以降、諸物価が急騰して、貧しい村人の生活が打撃を受けた。発行量の増大と経済危機で行き場を失ったドルが、穀物や金や石油に向かい、国際価格を上昇させたのが、原因である。なぜ金かと思うかもしれないが、花嫁側へ贈る婚資として欠かせないのである。我われは円高で少し息をつけたが、村人の多くは高騰に喘ぎ、金銭上の飢餓感を募らせ、貧しくとも助けあって生きていた昔を懐かしむ声が聞かれるようになった。そうして、2011年の「革命」、ムバラク退陣後の新政権も、観光客の減少に伴う外貨不足で、物価の高騰を抑えることができない状態が続いている。

もとに戻ると、発掘作業の労賃は、小作の日雇い賃金と連動させることで折りあいがつき、宿舎番人の給料は、村人の平均的年収に準拠することで決着をみた。彼等との間で長年かけて培ってきた仲間意識や信頼関係が解決に導いてくれたと思う。法外な労賃を呑まされたうえに、食料などの調達でも信じられないほどの高値を強いられた外国隊の例を聞くにつけ、人間関係の大切さを実感する。マインドやカインドは金銭の多寡であると同時に、人間関係のあかしでもあるのだ。

(2013年5月29日エジプト出発直前のご多忙な時期にご寄稿いただきました。)



右から3人目が川西団長、右端は調査隊の辻村先生(村人の家での歓談)

学会大会・講演会 スケジュール

2013年7月～2015年10月

※これらの情報は2013年6月5日現在のものであり、今後変更になる可能性がありますので、大会および講演会についてのお問い合わせは各イベントの問い合わせ窓口へお問い合わせをお願いします。

🕒=日時 📍=会場 👤=代表者・テーマ・講師・講演など ❓=問い合わせ先 📞=電話 📠=FAX ✉=E-mail 🌐=URL

掲載希望は随時受け付けておりますので、ご希望の学協会は右記のアドレスまでご連絡ください。

連絡/お問い合わせ ito@nacos.com

2013

July

日本グループ・ダイナミクス学会第60回大会

🕒 14日(日)～15日(月・祝) 📍北星学園大学 🧑 大会準備委員長/今川 民雄 ❓ 日本グループ・ダイナミクス学会第60回大会準備委員会
✉ jgda60@hokusei.ac.jp 🌐 <http://www.ipc.hokusei.ac.jp/~z00590/>

日本学術会議公開シンポジウム「昆虫分類学の新たな挑戦」

🕒 20日(土) 📍九州大学箱崎旧工学部本館大講義室 🧑 主催:日本昆虫科学連合・日本学術会議農学委員会応用昆虫学分科会/前藤薫 [神戸大学大学院農学研究科]: 摂食・被食系分析ツールとしてのDNAバーコーディングの可能性/土田聡 [農研機構果樹研究所]: 遺伝子診断法の微小農業害虫同定への利用/比嘉由紀子 [長崎大学熱帯医学研究書]: 病害昆虫の侵入と蚊媒介感染症流行の可能性について/伊藤元己 [東京大学大学院総合文化研究科]: 生物多様性情報の収集、共有と活用/多田内修 [九州大学大学院理学研究院・日本学術会議連携会員]: 日本の基盤資源としての昆虫標本の収集・収蔵とデータベース構築の現状/大原昌宏 [北海道大学総合博物館]: 博物館標本を機軸とした分類学人材育成: パラタクソミスト養成講座の実践/野村周平 [国立科学博物館]: 昆虫分類学の出口としてのバイオメティクス/長谷山美紀 [北海道大学大学院情報科学研究科]: 生物画像から工学的「きづき」を生み出すバイオメティクス・データ検索 ❓ 日本昆虫科学連合事務局: 森直樹 [京大農・応用生命] 📞 075-753-6307 ✉ sympo2013@insect-sciences.jp

August

第38回組織細胞化学講習会

🕒 1日(木)～3日(土) 📍講習会(1-2日): 東京大学/伊藤国際学術研究センター [伊藤謝恩ホール] 技術講習会 WetLab(3日): 日本医科大学大学院棟 🧑 実行委員長/小澤一史 (日本医科大学大学院医学研究科解剖学・神経生物学分野) テーマ: 組織細胞化学技法の基本をじっくりと、確実に ❓ 日本医科大学大学院医学研究科 解剖学・神経生物学分野 📞 03-3822-2131 (内) 5320 📠 03-5685-6640 ✉ info_38jshc@nacos.com 🌐 <http://www3.nacos.com/jshc/kosyu/>



September

第1回日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会総会・学術講演会

🕒 6日(金)～7日(土) 📍レンブラントホテル大分 TEL: 097-545-1040 🧑 会長/鈴木正志 (大分大学医学部耳鼻咽喉科科学講座) テーマ: 感染症対策とエアロゾル療法を見つめなおす/特別講演: 「話題の耐性菌と新しい抗菌薬療法の可能性」/教育講演: 「エアロゾル療法吸入デバイスの理論」/スポンサーレクチャー: 「たかが咳、されど咳～咳から考える気道感染症の診療」/シンポジウム: 「耳鼻咽喉科における院内感染予防と対策」/パネルディスカッション: 「ネブライザー療法の実践とエビデンス-How I do it-」 ❓ 〒 879-5593 大分県由布市狭間町医大ヶ丘 1-1 大分大学医学部耳鼻咽喉科科学講座 📞 097-586-5913 📠 097-549-0762 🌐 <http://www.entinfct.umin.jp/1st/>

第29回日本霊長類学会・日本哺乳類学会2013年度合同大会

🕒 6日(金)～9日(月) 📍岡山理科大学(岡山県岡山市) 🧑 会長/名取真人(岡山理科大学) ❓ 700-0005 岡山市北区理大町 1-1 岡山理科大学理学部動物学学科 ✉ mpj2013@zool.ous.ac.jp 🌐 <http://www.zool.ous.ac.jp/~mpj2013/>

環境資源工学会第27回シンポジウム

🕒 12日(木) 📍新橋住友ビル 🧑 実行委員長: 中澤 廣 ❓ 環境資源工学会事務局 📞 075-415-3661 📠 075-415-3662 ✉ rpsj@nacos.com 🌐 <http://www.nacos.com/rpsj/>

第65回日本生物工学会大会

🕒 18日(水)～20日(金) 📍広島国際会議場(広島市平和公園内) 🧑 大会実行委員長/加藤純一(広島大学大学院先端物質科学研究科教授) ❓ 日本生物工学会2013年度大会実行委員会 📠 082-424-7047 ✉ sbj2013@hiroshima-u.ac.jp 🌐 <http://www.sbj.or.jp/2013/>

水文・水資源学会2013年度総会・研究発表会

🕒 25日(水)～27日(金) 📍神戸大学百年記念館(神大会館) ✉ jshwr2013@org.kobe-u.ac.jp

第52回日本鼻科学会総会および学術講演会

🕒 26日(木)～28日(土) 📍福井フェニックス・プラザ(福井県福井市) 🧑 会長/藤枝重治(福井大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室) [26日]「舌下免疫療法の実践と対応」講習会・「鼻粘膜レーザー焼灼術の方法」・「先進的鼻副鼻腔内視鏡手術」 [27日]「臭覚障害は治る」・「副鼻腔炎の発症機序」・「アレルギー性鼻炎の感作と発症機序」 [28日]「手術前でのCT読影法」・「好酸球性副鼻腔炎ガイドライン」 ❓ 〒 910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月 23-3 福井大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 📞 0776-61-8407 📠 0776-61-8118 ✉ jrs52@4580.jp 🌐 <http://www.jrs.umin.jp/52nd/>



第54回日本組織細胞化学会総会・学術集会

🕒 27日(金)～28日(土) 📍航空会館(東京都港区) 🧑 会長/根本則道(日本大学医学部病態病理学系病理学分野) ■特別講演: 「1分子イメージングによる神経変性疾患の病理解明へのアプローチ」/武藤悦子(独立行政法人理化学研究所・脳科学総合研究センター) ■シンポジウム: 1. 「エピジェネティック因子の組織細胞化学」モデレーター/小路武彦(長崎大学)、北澤莊平(愛媛大学) 2. 「神経系の発生・分化の分子細胞化学」モデレーター/上田秀一(獨協医科大学)、榊原伸一(早稲田大学) 3. 「生体イメージングの最前線」モデレーター/西真弓(奈良県立医科大学)、多喜正泰(京都大学) ■ワークショップ: 1. 「新しい3次元の電顕解析法と組織細胞化学の接点を探る」モデレーター/太田啓介(久留米大学)、大野伸彦(山梨大学) 2. 「個別化医療のための免疫組織細胞化学のアップデート」モデレーター/廣井禎之(防衛医科大学校)、近藤哲夫(山梨大学) 3. 「硬組織形成の組織細胞化学」モデレーター/羽地達次(徳島大学)、菱川善隆(宮崎大学) 4. 「Cancer stem cell(がん幹細胞)の組織細胞化学」モデレーター/高橋玲(同志社女子大学)、佐谷秀行(慶應義塾大学) ❓ 日本大学医学部病態病理学系病理学分野 📞 03-3972-8111 (内) 2256 📠 03-3972-8163 ✉ jshc54@nacos.com 🌐 <http://www3.nacos.com/jshc/meeting/>

日本音声学会第27回全国大会

● 28日(土)～29日(日) 血金沢大学

October

日本解剖学会第73回中部支部学術集会

● 5日(土)～6日(日) 血山梨大学甲府キャンパス 血会長 / 大野伸一
? 山梨大学大学院医学工学総合研究部 解剖分子組織学教室
☎ 055-273-6743 血 055-273-6743

日本育種学会第124回講演会・第55回シンポジウム(平成25年度秋季大会)

● 12日(土)～14日(月・祝) 血鹿児島大学 血運営委員長 / 佐藤宗治
? 日本育種学会第124回講演会運営委員会 血 http://www.nacos.com/jsb/06/06top.html

The 1st East-Asia Microscopy Conference (EAMC-1)

● October 15-18, 2013 血 Chongqing, China

環境資源工学会 第131回例会

● 24日(木) 血産業技術総合研究所(つくば市) 血実行委員長 / 田中幹也
? 環境資源工学会事務局 ☎ 075-415-3661 血 075-415-3662 血
rpsj@nacos.com 血 http://www.nacos.com/rpsj/

第51回日本生物物理学会年会

● 28日(月)～30日(水) 血国立京都国際会館 血七田芳則(京都大学大学院理学研究科)「生命を“診る・観る”」(2013年10月27日(日)京都大学芝蘭会館)
? 第51回日本生物物理学会年会実行委員会事務局 血
ambsj2013@rh.biophys.kyoto-u.ac.jp 血 http://cls.kuicr.kyoto-u.ac.jp/bsj2013/welcome.html

November

第52回日本生気象学会大会

● 1日(金)～2日(土) 血米子市文化ホール 血渡邊達生 ? 第52回日本生気象学会大会事務局(担当:中村直子(鳥取大学医学部統合生理学分野))
☎ 0859-38-6033 血 0859-38-6030 血
physiol@med.tottori-u.ac.jp 血 http://jsb52.med.tottori-u.ac.jp/index.html

日本顕微鏡学会第57回シンポジウム

● 15日(金)～16日(土) 血名古屋駅前 WINK Aichi 血実行委員長 / 白倉治郎、副委員長 / 藤本豊士

第64回日本電気泳動学会

● 15日(金)～16日(土) 血東北福祉大学キャンパス 血総会長 / 船渡忠男(東北福祉大学)特別講演:野村文夫(千葉大学) ? 第64回日本電気泳動学会総会事務局 〒632-0018 奈良県天理市別所町 80-1 天理医療大学臨床検査学科 竹田真由 血
takeda@tenriyoro-u.ac.jp



第29回日本微生物生態学会年次大会

● 23日(土)～25日(月) 血鹿児島大学郡元キャンパス 血大会委員長 / 前田広人

日本言語学会第147回大会

● 23日(土・祝)～24日(日) 血神戸市外国語大学 ? 日本言語学会事務局 ☎ 075-415-3661 血 075-415-3662 血
lsj@nacos.com 血 http://www3.nacos.com/lsj/

2014~2015

2014-February

第32回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会

● 6日(木)～8日(土) 血ホテルクレメント徳島 血会長 / 武田憲昭(徳島大学大学院耳鼻咽喉科学分野) ? 徳島大学大学院耳鼻咽喉科学分野第32回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会運営事務局 ☎ 088-633-7169 血 088-633-7170 血
jjiao32@clin.med.tokushima-u.ac.jp 血
http://jjiao.umin.jp/32nd/

※演題募集期間:2013年8月9日(金)～10月4日(金)

2014-March

第55回日本植物生理学会年会

● 18日(火)～20日(木) 血富山大学五福キャンパス 血年会委員長 / 山田恭司(富山大学) ? 第55回日本植物生理学会年会委員会事務局 ☎ 075-415-3661 血 075-415-3662 血
jspp2014@nacos.com

SFRRI2014

● 23日(日)～26日(水) 血国立京都国際会館 血 Yuji Naito, Shinya Toyokuni 血 http://www.sfrri2014.org

第119回日本解剖学会総会・全国学術集会

● 27日(木)～29日(土) 血自治医科大学キャンパス、地域医療研修センターおよび教育・研究棟 血会頭 / 屋代隆(自治医科大学医学部解剖学講座 組織学部門) / テーマ: Anatomical Science の飛翔 ? 自治医科大学医学部解剖学講座 組織学部門 栃木県下野市薬師寺 3311-1 ☎ 0285-58-7314 血 0285-44-5243 血
anat119@jichi.ac.jp 血 http://www.jichi.ac.jp/anat119/index.html

※演題募集:2013年9月10日～/参加登録:2013年10月1日～

2014-May

第84回日本衛生学会学術総会

● 25日(日)～27日(火) 血岡山コンベンションセンター 血学術総会長 / 大槻剛巳 ? 第84回日本衛生学会学術総会運営事務局 ☎ 086-250-7681 血 086-250-7682 血
jsh84@wjcs.jp 血 http://www.convention-w.jp/jsh84/index.html

2014-August

第39回組織細胞化学講習会

● 6日(水)～8日(金) 血講演会:ピアザ淡海 滋賀県立県民交流センター ピアザホール 技術講習会 Wet Lab:滋賀医科大学キャンパス(滋賀県大津市瀬田月輪町) 血実行委員長:滋賀医科大学分子神経科学研究センターセンター長教授/遠山育夫 テーマ:じっくり学ぶ組織細胞化学の基礎と応用そして未来



2014-September

第53回日本鼻科学会総会および学術講演会

● 25日(木)～27日(土) 血第53回会長 / 友田幸一(関西医科大学)

2015-October

第54回日本鼻科学会総会および学術講演会

● 8日(木)～10日(土) 血広島国際会議場(広島県広島市) 血第54回会長 / 平川勝洋(広島大学)

Cross Check とは?

—「剽窃検知」=まずご存知ですか—

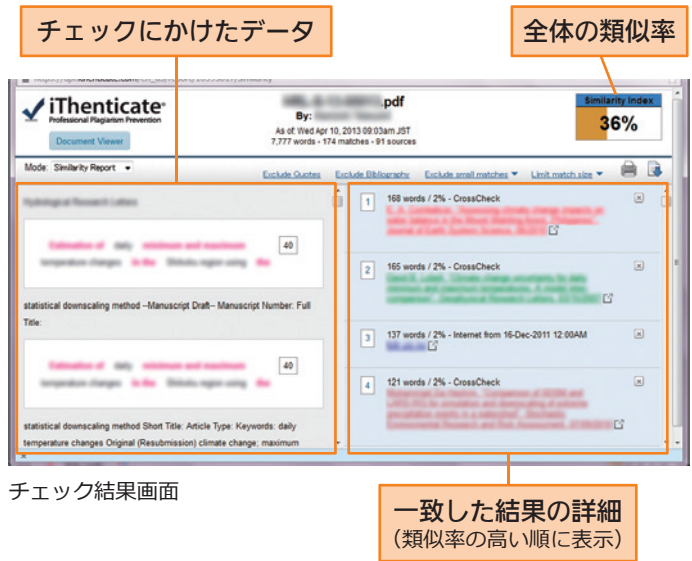


今まで印刷体として発行されてきたジャーナルは、近年のインターネットの普及に伴い、今やオンラインジャーナルとしての発行が主流となっています。

そこで、論文の閲覧や検索が容易になったため、重複出版や剽窃（ひょうせつ：他人の作品や論文を盗んで、自分のものとして発表すること）・盗用が増加するという問題が多くなっています。そのような問題を未然に防ぐため、CrossRef（米国 iParadigms 社）が剽窃検知ツール“CrossCheck”の提供を始めました。

簡単に言うと、データベースやインターネット上の文書とテキストパターンのマッチングを行い、類似率が高い文書を結果として表示させるツールです。

結果確認画面では、総合何%類似しているか数値で表されると同時に、画面左にチェックをかけたファイルの内容、画面右には類似性が高かった順に詳細結果が表示されます（右図）。



チェック結果画面

CrossCheck を利用するには、まず CrossRef の会員である必要があります。また、費用に関しては、

① CrossRef の年会費、② CrossCheck の会費、③ CorossCheck にかけた際の 1 論文につき 75 セントが必要です※1。

ただし、独立行政法人科学技術振興機構（JST）が運営している科学技術情報発信・流通総合システム（J-STAGE）にてジャーナルを公開し、かつ CrossRef のメンバーである場合は、①と②の費用は JST が負担するため、学協会が③のみの負担で利用することが可能です。

また、J-STAGE では J-STAGE 投稿審査システムとして Editorial Manager タイプと ScholarOne Manuscripts タイプの 2 種類の ASP※2 システムが導入されており、その投稿審査システムとの連携も可能です（利用する場合はシステムの改修が必要です）。

ただし、このシステムは剽窃・盗用などの不正を 100% 正確に指摘してくれるものではなく、あくまでもマッチングを行うシステムであり、同時期に二重投稿された場合や英語以外からの翻訳であった場合など、システムにかからない場合もあるため、その点は念頭に置いておく必要があります。

【参考 URL】 CrossCheck <http://www.crossref.org/crosscheck/index.html>
J-STAGE https://www.jstage.jst.go.jp/pub/html//AY04S470_ja.html

※1 ツールの利用に係る費用などは 2013 年 5 月現在のものです。

※2 Application Service Provider：インターネットを通じてアプリケーションソフトウェアを提供すること。

CrossRef について—WILEY から

CrossRef（クロスレフ）は、使いやすいスピーディーな学術論文リサーチシステムを提供することによって、画期的な最新技術の発展や共同開発を促進させることを目的としています。CrossRef の中核を成すのが電子書式による学術情報の引用文献リンクづけであり、複数の学術出版社の電子ジャーナルを相互にリンクさせるサービスは、電子論文間の交換機のような役割を果たしています。CrossRef そのものは全文表示できないものの、デジタルオブジェクト識別子（DOI: Digital Object Identifiers）を援用して全文へのリンクを提供しています。DOI とはこの CrossRef に参加出版社によって各論文のメタデータに付与される識別コードのことです。これによって、効率的且つ拡張性のあるリンクシステムが誕生し、研究者の方々は電子ジャーナルの参照引用文をクリックするだけで、引用元の文献にアクセスすることができるのです。

編 ◆ 集 ◆ 後 ◆ 記

担 当学会の総会で 5 月 16-17 日と札幌に行きました。札幌市営地下鉄の車幅がやけに広いのにびっくり。思わず覗き込んだらルールがありませんでした。そうですタイヤ軌道でした。
(チームリーダー/井上)

昨 年引越して初めての暖かい季節に突入。家の裏が田んぼと池なのでとにかく虫が多い(泣)。
(編集校正課/島田)

年々、「暑い」期間が長くなっていく気がしませんか。今年は蛍を見損ねてしょんぼりです。
(学会部/糸魚川)

気 がつけば 2013 年も折り返し地点にさしかかりました。元旦に立てたはずの一年の計を思い出しながら、後半戦に臨みたいと思います。
(学会部/宇野)

5 月中頃からビアホールをしている店に「早すぎやろ!」と思ってましたが、月末には納得です。暑い…。
(DTP 課/中村)

寒 い寒いと思っていたら、いきなり暑い暑い。京都の気候はますます厳しくなっている気がします。
(DTP 課/志水)

今 号から NACOS 学会フォーラムの制作に加わりました。学会誌の奥深さを感じております。
(プリプレス課/藤木)